

広げよう、ひとの輪

地球ことば村村長からみなさまへ！ 杯を挙げて



NPO法人 地球ことば村村長（理事長）
阿部 年晴

地球ことば村は10周年を迎えました。少数話者言語の世界に向かって開かれた窓、市民と当事者（少数言語の話者）と研究者が出会う場所、この「小さくて大きい村」は、初心を貫いて着実に活動を続けることができました。ご協力いただいた方々に心よりお礼申し上げます。会員（村人）の皆様には祝杯を。

さまざまな出会いがありました。世界各地の暮らしの中のことばの多様なあり方に触れる発見、驚き、感動。翻って現代日本のことばについての数々の気づきや反省。自分たちの言語を捨てざるをえない人びとの政治的経済的な苦境。これらの経験や気づきをバネに、ことば村は、東日本大震災時の滞日外国人への情報伝達や滞日日系ブラジル人の子どものことばの教育など社会的な問題にもとり組みつつあります。

「継続は力なり」。ことば村にも伝統らしきものが芽生え始めました。青壮老の連携も定着してきました。10周年記念行事や来年度からの新しい活動計画を相談する場では、次のステップへの機が熟してきたことがひしひしと感じられます。今年から来年にかけて、電子書籍の制作、u-tubeへの登場、ことば村検定、ポルトガル語教科書の作成配布、若い世代のボランティアの受け入れ態勢の充実、寄付制度の整備、多文化フェスタなど新しい活動に着手します。

会員の皆様の積極的な提言や参加をお待ちしています。自分たちの楽しみのためにも、世のため人のためにも、いっしょに地球ことば村の将来を切り拓いてゆきましょう。

創立メンバーから ひとこと・ふたこと

異邦人の言葉—地球ことば村への願い (東京外国語大学・地球ことば村プレーン) 峰岸真琴

異国で思いがけない言葉を耳にすることがある。たとえば、「バンコクの元軍医将校が戦前の留学時代の思い出を語った日本語は、古風で格調高い、懐かしい昔の山の手言葉であった」「タイのアランヤプラテートの難民キャンプに脱出してきたカンボジア人は、流暢だが声調が全くないタイ語で、生活の不安や、夜のキャンプの危険さを懸命に訴えてきた」「インドはアッサム地方のインパールで聞いた、日本の軍人に教わったという歌は、聞き覚えのないメロディーで、意味は皆目わからずじまだった」異国の人がさまざまな縁（えにし）で習い覚えたこれらの言葉には、個人の生の歴史と、彼らの生き抜いた時代が刻まれている。地球ことば村が、さまざまな言葉の出会いの場となって、懸命に生きる、名もなき人達の心に思いを馳せる場所であってほしいと願う。

目からうろこ体験を続けて10年 (芸能プロデューサー／(株) オフィス・ヘンミ・クリエイティブ取締役社長) 中村和則理事

小幡さんご夫妻からことば村設立の構想をお聞きののがもう11年前頃だと思います。これまで学校では語学に苦労していた僕ことばを考える消滅しそうな言語の研究なんて…?まったくそれだけでも僕にはカルチャーショックでした。学生の頃はどやうやって教授の視線をあびないようにと逃げ回っていた僕ですが還暦ちかくなって その教授方とに相対するなんて縦看板が並ぶバリエードの中にも 逃げ込みたい気分…?ことば村初回のサロン、そこで教えて貰ったのは母語と母国語の違い。「なーるほど…」なんて口では答えたものの未だにしっかり理解出来ない僕ですが今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

今後も、デザイン面などでお手伝いします (株) ロゴスクロス・クリエイティブディレクター代表取締役) 渡邊シゲル理事

「消えゆく言語に光をあてたい!」そんなイベントを開催したいと、小幡さんと永松さんが僕の事務所に訪ねていらしゃったのが、ことば村の始まりでした。お話をうかがってうろこに、一回のイベントで終わらせるべきものではないと感じ、何か継続的な活動を考えようということとなり、多くの教授陣の参加によって、現在の活動の基盤が出来上がりました。広告のデザインやコピーライティングを生業とする僕にとって、言語学者、文化人類学者の先生方とお会いして、お話が聞けるという体験は、とても新鮮でしたし、僕の素朴な言葉への疑問にも、みなさんが面白がって答えてくれたことも、今となっては、楽しい思い出です。仕事に追われて、以前のように活動のお手伝いもままならない状況ですが、発行物のデザインなど、僕にできることであれば、今後もサポートしてゆきますので、よろしくお願ひします。

会員のみなさまにお願いです！ 新会員の勧誘をお願いします！

ことば村は会員の会費に支えられています。ぜひお知り合いにことば村の活動を伝えて、会員になってくださるようお誘いください。昨年からの賛同を得やすくなるため、法人年会費を30,000円に値下げしました。お心当たりの法人のご紹介、なにとぞよろしくお願ひいたします。ことばの大切さや、異なる言語・文化を知る面白さを分かち合いともに草の根の国際理解・交流の活動を展開できますよう、皆さまのご協力をお願いいたします。

- 【会費】 入会金 1,000円
年会費 正会員3,000円 賛助会員1,000円 法人会員30,000円
- 【特典】 正会員は有料のイベントに無料あるいは割引料金で参加できます。
両会員ともイベントや希望する委員会に参加し、企画・提案などともに活動できます。
- 【申込方法】 Tel:03-5798-2828 / Email:info@chikyukotobamura.org /
Hp:http://www.chikyukotobamura.org/ (ホームページは「地球ことば村」で検索しても出てきます)



NPO法人地球ことば村は、日本語から世界の先住民言語までことばとその文化に親しみ語り手と結んでいくことを目的にした市民団体です。
●少数話者言語や日本のなつかしい方言、また、ことばによるコミュニケーションなど

地球ことば村 NEWS LETTER

No. 10

→2013年5月号

発行：NPO法人地球ことば村・世界言語博物館 事務局 発行責任者：阿部年晴
編集人：小幡由紀子 発行日：2013年5月1日
〒153-0043 東京都目黒区東山2-9-24 501
Tel：03-5798-2828 / Email：info@chikyukotobamura.org



'12.4 → '13.3 HIGHLIGHT

次の十年に向けて 飛躍の年に 在日ブラジル人児童のための副教材制作プロジェクトなど

今年、地球ことば村・世界言語博物館は設立10周年を迎えます。会員の皆さまのご支援により、国内外のことばについて、面白く楽しい、また意義のある活動を展開してまいりました。10年前と比較すると、最近では「方言など小さいことば」に対する一般的な関心が格段に高まっており、また、災害時の情報伝達など「ことばの交流のあり方」への関心も大きく広がっています。ことば村の目的「ことばでひとを結ぶ」は今後ますます重要な意味を持つことになることでしょう。今年にはさまざまな10周年の記念行事が企画されていますが、そのひとつとして、全日本社会貢献団体機構の助成を受け、在日ブラジル人児童の母語保持を支援するポルトガル語・日本語対訳副教材の制作・無償配布のプロジェクトが実施されます。(詳しくはP2で)こどもたちのことばの財産を豊かにするために、またふたつの文化の交流のために、多くの協力者を得て優れた教材になることを願っています。これからの10年を視野に、ご一緒に個性ある市民運動を展開していきましょう。皆さまのご意見など、常時メールなどでお寄せください。お待ちしております。これからはぜひ、皆さまのご支援・ご協力をお願いいたします。

EVENT REVIEW

「ことばのサロン」— 世界のことばを楽しみました

月例の「ことばのサロン」は、夏休みなどを除き全10回開催しました。内容を地域別に見ると、この1年はアジア7回・ヨーロッパ1回・アメリカ1回でした。どの回もその地域の言語や文化が、当然のことながら、政治(国家)によって大きな影響を受け続けているということと言語は一つの地域に一つではなく複数の言語が存在しているという現実が改めて強く感じられました。残りの1回は一昨年急逝された地球ことば村顧問で言語学者の金子亨先生(千葉大学名誉教授)を偲んでのお話でした。



「朗読の会」— 古き良き時代の物語に浸って

4回目を迎えた朗読の会、今回はイギリスの児童文学者:E.ファージョンの「街角のジム」を新たに訳して台本に作り、演劇集団たつのおとしご会の皆さんとキーボードの鈴木鈴動さんの協力を得て開催。戦前のロンドンを舞台にした老人と子どもの優しさに充ちたお話を、参加者の皆さまに堪能していただきました。心をこめたことばはいつも聞く人の心も温めてくれる、それをあらためて感じた一日でした。今年も素敵な演目を検討中。アイデアをお持ちの方はどうぞお寄せ下さい。



「映画の会」— 異文化を背景にしたふたりの交流を描いたイタリア映画を鑑賞

2回目のことば村「映画の会」。配給会社アルシネテランの提供を受け、杏林大学地域交流推進室との共催で、ロードショー前の「ある海辺の詩人—小さなヴェニスで—」を鑑賞しました。中国移民の女性とユーゴスラビア出身の漁師が「詩」を通して心を通わせる物語。会場は杏林大学八王子キャンパス、地域の方々も交えて、美しい映像としみじみしたことばのやりとりを楽しみました。



「ホームページ」— 新しいコンテンツが増えてますます充実

昨年度も皆様のご協力により、ことばに関する様々な情報を発信できました。サイトには大きなコンテンツが加わりました。一つは会員の稲垣徹氏寄稿の「世界の文字」で、世界各地の多彩な文字が紹介されています。3月末現在で40の文字が収蔵され、毎月拡充中です。もう一つは「金子亨記念文庫」です。元顧問の金子亨先生のサイト「言語・反戦」をご遺族の了解のもと移転、座長を務められた言語学ゼミの報告集や著書目録等とともに載せました。また清水梯氏の連載「よそおいの言葉—メイクアップの世界」がスタートし、「世界のことば」の新収蔵言語、イベントの講演内容等も随時掲載。さらにメルマガやフェイスブックでの情報発信も行いました。



INFORMATION

2013年度(平成25年度)会員総会のお知らせと参加お願い

- 会 場／慶應時塾大学三田キャンパス北ホール
- 開催日／2013年6月15日(土) 午後1:00～1:45
- プログラム 昨年度活動報告／昨年度会計報告／今年度活動方針・活動計画／今年度組織／今年度会計見直し

会員各位はP3の資料をご検討の上、ふるってご参加ください。

やむなくご欠席の場合は、お手数ですが委任状を5月末日までにご投函ください。

同時開催 鈴木孝夫先生特別講演

十周年記念特別講演・共催：慶應言語教育研究フォーラム

『世界共通語はなぜ不可能かーバベルの塔と「中間世界」としての文化』

- 北館ホール 上記総会と同日午後2:00～4:00

言語学者・人間学者・自然学者の鈴木孝夫先生を迎え、現代をどのように生きるべきか「ことば」を切り口に、弁舌さわやかに鋭く、しかし愛情と笑いの絶えない2時間。ぜひご参加ください。参加無料・申込不要です。

PROJECT

ポルトガル語教材の作成プロジェクト(全日本社会貢献団体機構助成事業) 日系ブラジル人児童が母語を保持し、バイリンガル能力を身につけるよう援助

入国管理法の改正によって日系ブラジル人やその子弟の入国が幅広く認められるようになりました。その結果、群馬県の太田市、愛知県、静岡県 of 工業都市などにブラジル人の集住がみられるようになりました。

しかし、日系といっても三世、四世になると日常語はポルトガル語なので学校や社会への適応が困難な子どもが増えて問題になっています。また、学校などで日本語のほうが達者になった子どもたちと親世代がコミュニケーションを取りにくくなる事例もあります。

多言語社会における言語状況の研究者(東京女子大学)松尾慎先生は学生グループ「ばずる」を主宰し、群馬県の太田市を定期的に訪問して、地元の母語保持教室で日本の童話などの読み聞かせをする活動をおこなっています。この活動を見学させてもらう機会があり、地球ことば村の有志はマイクロバスを仕立てて見学に行くことになりました。

太田市には自動車工場などがあり、ブラジル人は主として臨時工として働いています。近くには立派なブラジル人スーパーさえあります。しかし、ブラジル人の日本への移民、あるいは出稼ぎは、中国人や韓国人などのような歴史がありませんので華僑などのようなしっかりした受け入れ団体がなく、各地の自治体の努力にもかかわらず、さまざまな問題に直面していることがわかりました。

そのひとつが教材不足です。そこで私たちは日本の童話を日本語とポルトガル語の対訳絵本にして読み聞かせの教材に使ってもらうことができないかと、考えました。東京女子大学の学生さんのグループ「ばずる」と協働で、全日本社会奉仕団体協議会に資金の援助を申請したところ、幸いなことに認められましたので、これを今年度の活動の一つの柱にしたいと考えています。

年末までにはカラー版の日ボ童話絵本ができあがる予定です。それを使って、「ばずる」のメンバーが読み聞かせなどの活動もする予定です。作成にあたっては翻訳や挿画、出版などさまざまな仕事ができますので、ぜひご協力ください。こんなことで協力できそう、というかたは、事務局あて、メールでお知らせくださると大変嬉しく思います。

Email/info@chikyukotobamura.org

ことば村のみんなで、日系人児童の未来を楽しく支援しましょう。



太田母語保持教室風景

NPO法人地球ことば村。世界言語博物館2012年度(平成24年度)活動報告

イベント部会

- 総会 2012年度総会 2012年6月9日(土)午後1:00～2:00慶應義塾大学三田キャンパス
- ことば塾

ことばのサロン(各月土曜日開催)

年	日	題名	講師
12年	4月7日	「ネパールのことばと文化」	講師 サルジュ・バンディット(カトマンズ大学)
	5月26日	「エウエンの人々の言葉と暮らし」	講師 鍛冶広真(東京大学大学院)
	6月9日	「金子亨先生を偲ぶ」	講師 中川 裕(千葉大学)
	7月7日	「新疆ウイグル自治区のシベ族のことばと暮らし」	講師 児倉徳和(九州大学)
	9月29日	「モンゴルの言語と文字の歴史」	講師 宮脇淳子(東京外国語大学・国士舘大学)
13年	10月27日	「北朝鮮で暮らすということ」	講師 韓錫圭(著述業) 高柳俊男(法政大学)
	11月24日	「チベットの物語世界とことばの力」	講師 星 泉(東京外国語大学)
	1月12日	「現代を生きる狩猟民 アラスカ先住民グイッチンのことばと文化」	講師 井上敏昭(城西国際大学)
	3月16日	「もう一つの『中国』～台湾の言語事情～」	講師 内山政春(法政大学)

ことば村朗読の会「街角のジム」

2013年2月8日(土) テッド・アート・スタジオ 協力 演劇集団たつのおとしご会・鈴木鈴勤

ことば村映画の会 共催：杏林大学地域交流推進室「ある海辺の詩人ー小さなヴェニスでー」

2013年2月28日(土) 杏林大学八王子キャンパス

サイト部会

- コンテンツの新設(「世界の文字」「金子亨記念文庫」など)と従来の項目の充実
- 月刊メールマガジンの発行

NPO法人地球ことば村・世界言語博物館2012年度(平成24年度)事業会計収支報告

収入の部

1)入会金・会費収入	225,000
2)事業収入	0
3)助成金等収入	0
4)寄付金収入	7,271,754*
5)雑収入	152,013

支出の部

1)事業費	0
2)管理費	事務用品費 27,679 消耗品費 11,042 交通・宿泊費 2,400 資料代 3,159 研修費 44,000 外注費 145,000
電話関連費	153,870
運搬・通信費	35,690
支払手数料	1,525
会議関連費	4,340
サイト関連費	23,940
協力費	135,000
会場費	45,000
印刷費	44,307
協力費	154,950

当期収入合計(A) 7,648,767 当期支出合計(B) 831,902

当期収支差額(A-B) 6,816,865

前期繰越収支差額(C) -7,102,683

次期繰越収支差額(A-B+C) -285,818

*寄付の内訳 フォーラムでの寄付142,785/会員からの寄付44,000/理事からの寄付7,084,969
このうち、「理事からの寄付」は、創立以来の立て替え金を寄付に付替えることに同意した理事会メンバーの寄付総額です。